

アグリガスコム の取り組みについて

営農型発電を通じた地域循環型ビジネスと
高付加価値コーポレートPPAの実現

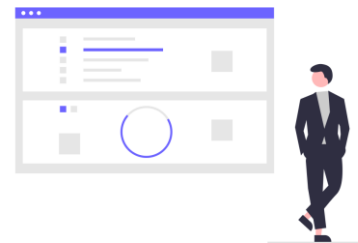


2023.11.29

アグリガスコム株式会社
代表取締役社長 西山暢一

本日の流れ

- 0 - 会社概要
- 1 - 営農型発電事業について — 事業参入の経緯
- 2 - 営農型発電事業における障壁
- 3 - 営農型発電とコーポレートPPA
- 4 - 営農型発電成功の要件
- 5 - 弊社の今後の展望について



アグリガスコム会社概要

会社概要

可能性をさぐり、未来へ飛びこむ

agrigascom

会社名	アグリガスコム株式会社
住所	愛知県豊橋市神野新田町二ノ割4-1
設立	2018年6月
資本金	50,000,000円
グループ	日本ガスコムグループ

事業概要

- 【**営農**事業】 発電所下圃場での一般野菜・果樹生産
- 【**営農**事業】 植物工場でのブルーベリー通年栽培
- 【**発電**事業】 営農型太陽光発電(ソーラーシェアリング)事業者

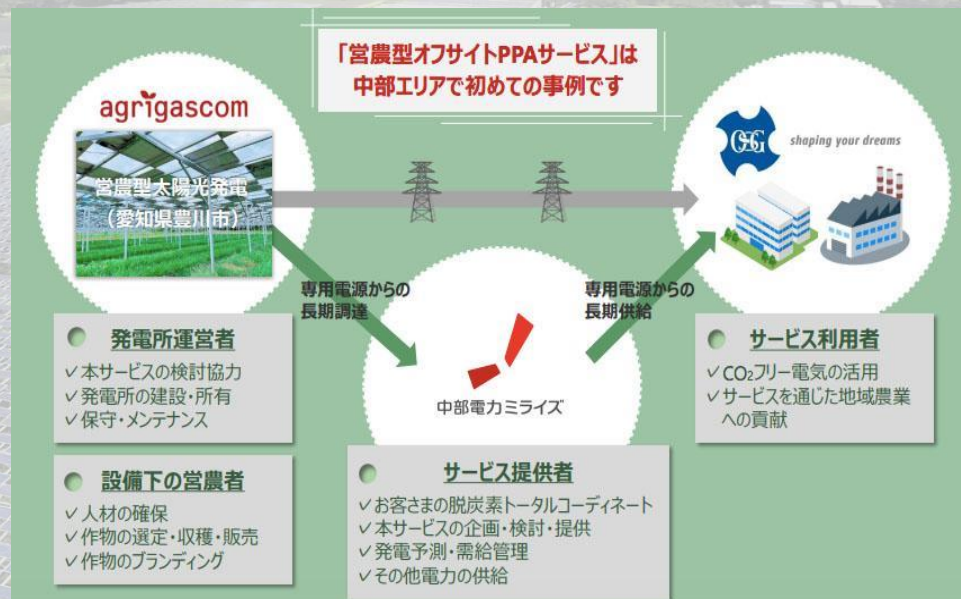
■ コーポレートPPAにおける営農型発電事業

2022年度より、中部エリアでは初となる
 営農型発電によるオフサイトPPAサービスを
 スタート(約4,000kW,DC)

【需要家企業に人気】

昨年度、中部エリアで初めての営農型オフサイトPPAの運開をしたところ、金融、エネルギー、製造、流通等の大手企業、大学等からの見学の申し入れと、数多くの協業の引き合いがあります。

営農型の場合、カーボンニュートラルに併せて、地域社会の持続的貢献と云う社会課題解決の色彩がありますので、需要家企業の選好に合う側面があります。



■ グループ全体の太陽光発電所の運営状況

自社保有発電所
総発電容量

35,000 kW(DC)
※47箇所／グループ計

そのうち
営農型発電所

10,000 kW(DC)
※19箇所／営農面積は約16ha



1 営農型発電事業について

—事業参入の経緯

■ 当社がソーラーシェアリングに参入した経緯

社会課題の解決

- 耕作放棄地、不耕作地問題
- 農業の後継者不足



荒廃農地の再生



若手営農者の登用

当社がソーラーシェアリングに参入した経緯

新しいスキームの誕生

○ FIT制度における売電単価の下落

【アグリガスコム 営農型発電所 開発の歴史】

No	運開年	耕地面積 (ha)	D C (kw)	栽培作物	スキーム
1	2019	4.3	2,216	ブロッコリー⇒ニラ	FIT
2	2021	2.6	1,130	ブルーベリー、ニラ	FIT
3	2022	1.1	590	ニラ	FIT
4	2023	4.7	3,600	レモン、ニラ	PPA
5	2024 建設中	3.5	2,640	レモン、ニラ	PPA
	合計	16.2	10,176		

FITからPPAへ

アグリガスコムの営農型発電所



上長山ソーラーファームNorth/South

[発電容量] **2,200** kW ※DC, 2つの発電所の合計値

[面積] **40,000** m² (=12,000坪) ※全て借地

[構造] 架台高さ： **2,600** mm
 支柱の幅： **4,200** mm ~ **4,400** mm
 遮光率 : **27** %

[作物] ニラ (4,000kg/月を出荷)

千鳥格子
のパネル配置



重機の走行が可能な
架台構造

生産したニラは **豊川ニラ** ブランドとして
地元スーパーなどに出荷



地元の餃子メーカー
とのコラボレーション



2 営農型発電事業における障壁

■ 営農型発電事業の継続における障壁

▲ 発電所用地の確保

⇒ 農業事業には門外漢であったガスコムグループ
地元の土地所有者との折衝、信頼関係の構築

▲ 営農の継続性、質の担保

⇒ 複数の農業法人へ打診するもことごとく断られる。
ならば自分たちでやるしかない。
発電事業者と営農者の同一という県独自のルール

▲ 農地転用手続き ー地元の農業委員会の理解

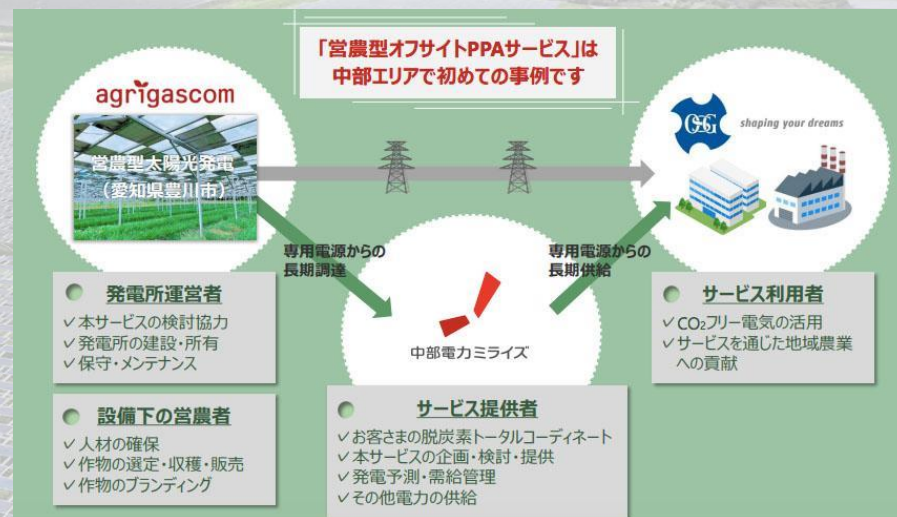


3 営農型発電とコーポレートPPA

■ コーポレートPPAにおける営農型発電事業

2022年度より、中部エリアでは初となる
 営農型発電によるオフサイトPPAサービスを
 スタート(約4,000kW,DC)

- ▶ 地元の製造業メーカー(上場企業)へ電力供給
 RE100に加盟している企業をはじめ
 輸出企業においては再エネ電源の電力需要が高い
- ▶ 需要先の福利厚生としての収穫体験や
 社員食堂での食材利用など、営農型ならではの
 コラボレーションも検討中



4 営農型発電展開の要件

■ 営農型発電発電所運営におけるポイント

○ 営農を前提とした発電所の設計

ex:) 架台の構造、高さ、パネル配置等

○ コスト管理／組織管理

- ー農業に係る経費を、農業収入でバランスさせること
売電期間を担保する分の営農を継続させる、強い法人づくり
- ーイニシャルコストは地上設置型の発電所よりも大きくなるが
営農型発電所だからこそその需要家獲得にも繋がる場合も多い



5 弊社の今後の展望について

■ ガスコムグループの今後の展望



**農業事業単体での
収益のバランスング**



**耕作放棄地を活用した
大規模レモン栽培プロジェクト**